

「お腹を切らずに、内視鏡で胆石の手術。  
キズも小さく、体への負担も少ないため、娘と歩けました。」



入院期間、内視鏡手術の適否、術後の負担、回復期間などは、施設、および病状および個人差によって異なります。詳しくは専門医にお問い合わせ下さい。



直径5mm、お腹の中を観察する内視鏡

いま、胆石を取り除く手術が変わってきています。お腹を切らずに小さな穴を数ヶ所開け、そこから腹腔鏡という内視鏡を入れて、お腹の中をTVモニターで観察しながら治療するという方法です。傷あとが小さく、術後の負担も軽減し、早期退院にもつながります。もちろん個人差はありますが、これまでの開腹手術では、約1カ月の入院だったことと比べると、驚くほどの進歩です。年齢とともに社会的責任が増し、また、多忙な現代人にとって、内視鏡による体にやさしい手術がもたらすメリットは、少なくないといえます。「内視鏡下外科手術」と呼ばれるこの方法は、胆石を除去する胆嚢摘出をはじめ、消化器、呼吸器、泌尿器、産婦人科、整形外科分野などの領域にも拡がりつつあります。「胃の中の写真を撮れないか?」というある医師の思いに応え、1950年、オリンパスは世界で初めて「胃カメラ」の実用化に成功。今や診断から治療までできる内視鏡として進化を遂げ、世界中の医療現場に広く普及し、医療の発展に貢献しています。“Your Vision, Our Future”人々の夢を創り、実現する力、オリンパス。

# Your Vision, Our Future